



犬猫救う飼い主探し

動物愛護週間

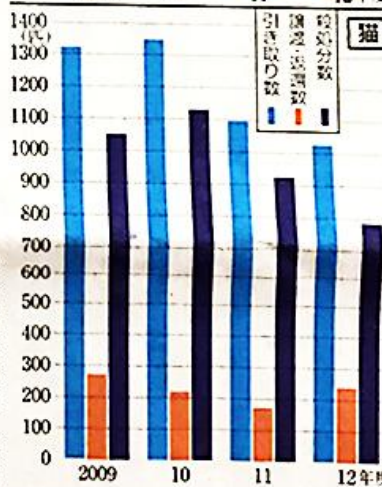
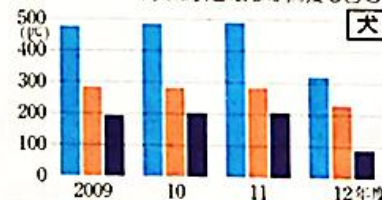
福井のNPO奮闘 殺処分「人間の都合」

動物愛護週間(二十一日～二十六日)の二十三日、NPO法人福井犬・猫を救う会(福井市、藤永隆一代表)は、福井市大手二丁目のJR福井駅高架下で、犬と猫の譲渡会を開いた。県内の各健康福祉センターには、飼育されていない犬と猫が年間計千数百匹持ち込まれ、そのうち六、七割が殺処分されている。同会は「数字は氷山の一角」とみて、適切な飼育による共存を訴える。＝関連図面＝ (山本洋児)

この日の譲渡会には、子望者らと対面し、犬六匹と犬五匹と成犬一匹、子猫八、猫二匹が、新たな飼い主に匹が持ち込まれた。飼育希望を引き取られた。

譲渡を希望した美浜町の高齢夫婦は当初、二匹の捨て犬を飼育。不妊・去勢手術をしなかった結果、出産を繰り返した。十五匹にまで増えてしまった。手に負えなくなり、救う会に相談した。

県内各健康福祉センターでの犬・猫の引き取り・譲渡・殺処分の推移
※犬の引き取りは捕獲も含む



会によると、県内で殺処分される犬と猫の数は減少傾向にあるが、ゼロには程遠い。特に猫は、年間の殺処分が二〇一二年で七百八十四匹と目立つ。藤永代

表は「猫は生後四、五カ月で出産し、回数も年間に三回ほどと犬に比べて多い。一回での誕生数も多く、生まれてからびっくりする人が多い」と話す。

飼い主不在の犬、猫を減らすには、不妊・去勢手術が効果的という。費用は犬で一万五千～三万円、猫で二万～三万円ほど。同会は

二〇一三年度から、福井市と協働で野良猫の手術費を助成している。二二年度までは市独自で飼い犬への助成をしていたが、数が減ってきたため、猫だけが対象となった。補助額は雄が六千円、雌が四千円。予算額は六十五万円で、八月末時点で二十五万円が使われた。救う会は来年三月末まで助成希望者を募っている。

藤永代表は「不幸な犬、猫が生まれるのは、全て人間の都合」と話し、行政も含めた体制づくりを望む。次回の譲渡会は十月二十六日午前十時から正午まで、同会場。

問い合わせは救う会＝電話070(5630)2429＝へ。